

ものづくりに必要な“設計力”を習得

IPCでは、企業に求められる知識や技術を身に付け、社会の変化に対応できるエンジニアの育成をめざし、技能検定や各種大会にも積極的に挑戦しています。

今回は、7月末に広島で開催される「第17回若年者ものづくり競技大会」の「機械製図CAD（キャド）」職種に、生産技術科2年生1人が出場を予定しています。

この職種は、組み立てられた機械装置の課題図から指定された部品の機械図面をCADと呼ばれるソフトウェアで設計・製作する競技です。課題図に表示されていない部分の形状を想像しながら図面を作成する難しさがあり、選手には平面に描かれた図から立体の形状を把握する能力が求められます。



出場する学生は、「上位入賞をめざします！」と日々多くの練習課題をこなし、設計やCADの知識・技能を磨いています。指導している先生は、今回の挑戦を通して価値のある設計技術を身に付けて欲しいと期待しています。

MEX 金沢 2022 —第58回 機械工業見本市 金沢—

5月19日、県産業展示館（金沢市）で開催された第58回機械工業見本市「MEX 金沢 2022」に、学生約80人が参加しました。MEX 金沢は対面での開催は3年ぶり、会場となった産業展示館には石川県内の機械系企業を中心に多くの企業や団体が出展しており、最新の技術を用いた機器やロボットなどを見ることができます。

IPCでは、学生の就職への意識付けや企業研究、志

望企業の情報収集など、学生自身の成長と就職活動の促進を図る目的で、参加しています。

学生は約150社ある企業ブースを各々訪問して、担当者から最新技術や機器の説明を受け、「将来の選択肢が広がった」などの感想を述べていました。

学生は、企業の人や展示されている製品からたくさん刺激を受け、大いに社会人になるための視野を広げることができたと思います。